

童話と映画のあいだ—『魔女の宅急便』—

米村 みゆき

1. 『魔女の宅急便』の原作と映画の比較をすること

宮崎駿のアニメーション映画は、大胆な脚色を行い、映画のもととなった原作の世界から大きく逸脱すると言われてきました。しかし、1989年に公開されたアニメーション映画『魔女の宅急便』と、その原作となった角野栄子の童話『魔女の宅急便』を比較するとき、原作童話に対する宮崎の深い読解が見えてきます。同時に童話（活字）と映画（視聴覚）という媒体の差がもたらす作品の特性も明らかになります。

- (1) 〈翻案〉とは何か
- (2) 童話とアニメーションの媒体の差
- (3) 宮崎駿による〈翻案〉の具体的な様相

2. 魔女の表象

童話作品においても映画作品においても「魔女」は、人間とは異なる存在とし登場しています。しかし、「魔女」である主人公のキキが、人間のコミュニティに入り込めない理由は、異なります。角野栄子、宮崎駿という作家が「魔女」を通して、どのようなテーマを描いたのかを探ります。

- (1) 魔女と人間の垣根
- (2) 「魔女の血」とは何か
- (3) 「魔女」「魔法少女」とは？

3. 宮崎駿による解釈と再創造

宮崎駿のアニメーション映画には、児童文学作品から得られた想像力が見えます。原作となった童話に対する深い読解も確認できます。童話から映画化への過程においてどのような想像力が働いているのかを具体的に見てゆきます。

- (1) 角野栄子の童話の伏線
- (2) 「赤ん坊のおしゃぶり」の物語的な進展
- (3) 童話世界を継承の解釈の再配置